




琉球大学学術リポジトリ

食道および気管・気管支との位置関係に基づいた気管支動脈の解剖学的分類

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2017-05-02 キーワード (Ja): キーワード (En): bronchial artery, esophagectomy, anatomy 作成者: 早坂, 研, Hayasaka, Ken メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/36548

(別紙様式第7号)

論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	早坂 研
論文審査委員		審査日	平成 29 年 1 月 12 日
		主査教授	村山 真之 
		副査教授	岡吉 幸男 
		副査教授	高山 千利 
(論文題目)			
A new anatomical classification of the bronchial arteries based on the spatial relationships to the esophagus and the tracheo-bronchus (食道および気管・気管支との位置関係に基づいた気管支動脈の解剖学的分類)			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文に関して、研究にいたる背景と目的、研究内容、および研究結果の意義と学術的水準について慎重に検討し、以下のような結果を得た。			
1. 研究の背景と目的			
食道癌根治術において、リンパ節郭清を徹底することにより治療成績の向上が期待されるが、同時に気道への血流遮断による虚血から重篤な呼吸器合併症を引き起こす可能性がある。より安全で根治性の高い手術を遂行するためには、気道の栄養血管である気管支動脈の解剖学的知識が重要である。気管支動脈は非常にバリエーションが豊富な血管であり、臨床での必要性から、近年 MDCT を用いた解剖学的研究が行われている。一方、遺体を用いた肉眼解剖学的な研究は最近ではほとんど行われていない。本研究では成人遺体を用いて気管支動脈の解剖学的特徴について、特に縦隔内での走行経路に焦点を当てて検討した。			
2. 研究内容			
72 体の遺体において 100 本の右気管支動脈、127 本の左気管支動脈を剖出した。右気管支動脈を 1 本、左気管支動脈を 2 本持つ個体が最も多かった。右気管支動脈は肋間動脈との共通幹 (60 本、60%)、左右気管支動脈共通幹 (28 本、28%)、胸部大動脈 (9 本、9%)、右鎖骨下動脈 (2 本、2%)、左鎖骨下動脈 (1 本、1%) から分岐していた。左気管支動脈は胸部大動脈 (98 本、77.2%)、左右気管支動脈共通幹 (29 本、22.8%) から分岐していた。今回剖出された気管支動脈 227 本の縦隔内における走行経路は次の 4 型に分類された。I 型) 食道の右側を走行して気管・気管支に至るもの (61 本、26.9%)。II 型) 食道の左側を走行して気管・気管支の背側に至るもの (98 本、43.2%)。III 型) 食道の左側を走行して気管・気管支の腹側に至るもの (65 本、28.6%)。IV 型) 鎖骨下動脈より分岐して気管・気管支の腹側を走行するもの (3 本、1.3%)。I 型および IV 型はすべてが右気管支動脈であったが、食道左側を走行する II 型では 8 本 (8.2%)、III 型では 28 本 (43.1%) が右気管支動脈であった。今回の研究を含めた肉眼解剖学的研究と MDCT を用いた研究を比較すると、縦隔内での走行経路が短い II 型の左気管支動脈は MDCT では十分に描出されていない可能性が示唆された。			

3. 研究成果の意義と学術的水準

気管支動脈の解剖学的研究は胸部悪性腫瘍手術、肺移植、喀血に対する血管内治療等、臨床において重要である。本研究は MDCT 画像による研究で用いられた分類法に基づく結果を、実際に肉眼解剖で確認しているという点で意義が深い。本研究の結果は今後の MDCT による気管支動脈研究の解釈において重要な役割を果たすと考えられる。さらに、走行経路に関しての新たな分類は術中に適用が可能であり、臨床において有用と考えられる。

以上により、本論文は学位授与に十分に値するものであると判断した。

- 備考
- 1 用紙の規格は、A 4 とし縦にして左横書きとすること。
 - 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
 - 3 *印は記入しないこと。